

職場との連携や環境調査の重要性を感じた一症例 ～広背筋移行術後の復職支援を経験して～

○高本日向 清水亮芳 中平孔志 清水真也 井上耕一
医療法人怨風会 大洲記念病院

Key Word : 職場復帰, 肩腱板損傷, 職業リハビリテーション, 訪問指導

【はじめに】 腱板広範囲断裂術後の修復には長期間を要し, 再断裂のリスクも高い為, 生活, 仕事場面への支援が極めて重要である。本症例は, 仕事中に腱板断裂を受傷し, 広背筋移行術 (以下 LDT) を施行されている。今回, 職場復帰を希望する症例に対し, 作業療法士(以下 OT)が職場訪問, 動作指導を実施し, 復職に至った事例を報告する。尚, 本報告に際して, 個人情報取り扱いについて説明し, 同意を得ている。

【事例紹介】 50歳代男性, 畜産農業会社勤務。2020年7月の仕事中に重量物を把持し, 左肩関節に疼痛が出現した。診察の結果, 棘上筋, 棘下筋の腱板断裂と診断され鏡視下腱板縫合術を施行された。その後, 2回の再断裂を経てLDTを施行された。

【作業療法評価】 [術前]・ROM: 自動/挙上 50° 他動/挙上 145° ・JOA: 53.0点・shoulder36(以下 sh36): 疼痛/3.3 可動域/3.2 筋力/1.0 健康度/3.3 日常生活動作/3.1・MRI 所見/Goutallier Stage 棘上筋: 2 棘下筋: 3
[術後5ヶ月]・ROM: 自動/挙上 40° 他動/挙上 120° ・MMT: 挙上/2、外転/2 ・JOA: 56.0点・sh36: 疼痛/2.8 可動域/3.3 筋力/1.5 健康度/2.8 日常生活動作/2.7

【介入経過】 1回目の職場訪問(術後5ヶ月)では, 本人, 事業主立ち会いの下, 病前に遂行していた業務である牛舎の清掃, 牛の誘導, 重機の操作, 牛の餌作りの4つの課程と動作を確認し, 主治医(以下 Dr)へ状況報告を行った。重機の操作は運転席が高所に登る必要がある事と, 牛の餌作りでは, 約10kgの餌を両手で運ぶ動作に再断裂の危険性が高い事を確認し, 配慮が必要な動作を本人と共有した。また, 事業主と面談を行い「一部の業務だけでも復帰してほしい」との意向を得た。一方で, 本人は以前のような作業が出来ない現状に不安が強く, 消極的な言動も聴かれた。訪問後, 再断裂の危険性が高い動作の代替手段として非術側で遂行できる動作方法を Dr に提案し, 安全面での許可と本人からは動作方法の変更について同意を得られた為, 模擬環境での動作訓練を開始した。2回目(術後7ヶ月)の職場訪問にて非術側での動作確認を行った。結果, 牛の餌作りは遂行可能であったが, 重機への乗車及び降車に関しては, 術側を補助的に使用しなければ安全な動作遂行が出来ない事を確認した。そのため, 現場での動作を撮影し Dr へ報告した。その結果, 補助的な使用は許容範囲内であると判断され, 復職につなげる事が出来た。

【結果】 [術後12ヶ月]・ROM: 自動/挙上 45° 他動/挙上 140° ・MMT: 挙上/2、外転/2 ・JOA: 61.5点・sh36: 疼痛/2.8 可動域/3.0 筋力/0.5 健康度/3.0 日常生活動作/3.2。

指導した4つの動作は時間を要するも遂行可能となった。現在は, 本人の意向により半日だけ業務に復帰している。訪問後は, 以前見られていた現状への不安の訴えは減り, 職場についての会話も多くなっている。外来リハビリテーションは継続しており, 肩関節機能訓練と職場を想定した模擬動作訓練, 職場での動作が安全に実施出来ているかの確認, 指導を行っている。

【考察】 今回, 症例の職場復帰を目標に介入を行い, 半日の業務復帰を実現する事が出来た。しかし, 仕事への不安は軽減したものの, 完全な復職には至っておらず, 本人の意思を尊重した上で, 段階的に労働時間, 内容を検討しながら慎重に進めている。南川らは, LDTの長期経過に関して6名の対象者の評価を行ったところ, 術後平均105.8ヶ月でJOAが52.3点から70.9点の改善と術前平均挙上73.3°から挙上115.8°の改善が見られている¹⁾と報告している。症例は術後12ヶ月経過しているが, 業務遂行や生活動作に必要な可動域, 筋力の獲得には時間を要すると考える。OTが復職支援を行う際に中井らは, 対象者を包括的に評価する事, 人的・物的環境の評価・調整を行う事, 模擬環境での職業前訓練を実施する事, 当事者の能力について適切に評価し情報伝達する事, 企業との連携を行う事が重要である²⁾と述べている。今回の介入は, 症例の動作評価及び指導に加え外来リハビリテーションでの模擬動作訓練, Drへ情報伝達を行い安全性の高い動作を検討できた事, 事業主とのやり取りを行い, 復職条件を確認できた事が半日の職場復帰を実現させた³⁾と考える。今回の経験を通して身体機能訓練だけでなく, 職場と医療の中継役としてOTが介入し, 様々な専門職及び職場関係者と綿密な連携や情報共有を図る重要性を強く感じた。

【引用文献】

- 1) 南川ら. 修復可能な広範囲腱板断裂に対する筋移行術. 整形外科と災害外科. 2018. 67巻1号. p5-10
- 2) 中井ら. 職業リハビリテーション(就労支援・復職支援)における作業療法士の役割について考察. 平成27年度滋賀県立リハビリテーションセンター調査研究事業 内部研究. 2015. p41-66